

# 白藍塾オリジナル

## 2013入試小論文分析&解答のヒント

2013年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

### ●慶応・総合政策学部

「政党のスピーチライターとして、党首候補者の弁論大会のスピーチ原稿を書く」という設定は込み入っているが、この設定は無視してかまわない。そうすれば、この問題が、2009年度や2011年度のそれとよく似ていることがわかるはずだ。ただし、今回は、特定の立場に立って論じることが求められているという違いがある。「自分の考え」が問われているわけではないので、その点は注意すること。

頭から資料を読む必要はない。最初の二つの設問を踏まえて、第3問を書くのに必要なポイントだけをつかめばよい。

A～Dの主張を簡単にまとめると、次のようになる。

A＝「日本は経済的、技術的、文化的に世界のトップレベルであり、社会的にも安定している。これまでも様々な課題に直面してきたが、そのたびにそれを克服してきた。デフレや少子高齢化、エネルギー問題といった現在の課題も、日本人としての自信を回復し、すぐれた課題解決の能力を持って取り組めば、必ず克服できる」

B＝「近代以降の日本の繁栄は、運によるところが大きい。今後は、国家資本主義の台頭やアジア諸国の追い上げによって、日本の優位性は低下していく。そうならないために、運に頼るのをやめ、政府がもっとリーダーシップを発揮して、国益優先の国家戦略を構築して難局を切り抜けるべきだ」

C＝「日本は国家戦略を決めて実行するのではなく、その場の状況に応じて対応することで危機を切り抜けてきた。今後は、低成長の時代を迎えるにあたり、どのように対応するべきかを考える必要がある。経済を重視するのをやめ、もっと個人が自分自身の幸せを追求できるような社会をめざすべきだ」

D＝「今後はグローバル化がさらに進んで、国レベルでの対応が難しくなる。積極的に開国し、スイスなどのような多言語の小国をめざすべきだ。また、人的資源を増やすために、都市のインフラを充実させ、ネットワークを整備する必要がある。これまでの国家の枠組みを解体することで、逆に日本を再生できるはずだ」

第1問と第2問は、はっきり「準備問題」とあるように、論点を整理して第3問のスピーチ原稿をうまくまとめるための準備作業。

第1問は、「日本のこれまでの国家運営の評価」「今後の日本を取り巻く環境の変化」「今後の日本の国家運営のあり方」という3つの観点から、A～Dの主張を整理する問題。先ほどのまとめを見れば、問題なくできるだろう。

第2問は、A～Cの主張を3つのキーワードで表わす問題。それぞれのスピーチの中から、スローガンになりそうなワードを適当に拾えばよい。Aは「日本人の自信回復」「優秀な国民」「尊敬される日本」など。Bは「ゼロからの再出発」「周到な国家戦略」「リーダーシップ」など。Cは「状況対応」「したたかな受け身」「足るを知る」など。

第3問は、D組のスピーチ原稿を書く問題だが、タイプとしてはプレゼンテーション問題。「ガイドライン」からはずれないようにしつつ、四部構成を応用すればよい。

「特に重要と思われる論点」としては、やはり国家の役割をどう考えるかがポイントになるだろう。Aは従来の国家運営を踏襲することを、Bは逆にもっと強力な国家戦略を打ち出すべきだと主張しているが、いずれも国家の役割や国家としての枠組みを重視している点では同じ。それに対し、CとDは国家中心の考え方を否定している点では同じだが、Cが「日本の針路」を考えること自体を否定しているのに対し、Dは脱日本の方向を進めることが今後の「日本の針路」になると考えている。そういった違いを踏まえた上で、全体の構成を考えるとよいわけだ。

第一部で、D組が主張している「日本の針路」をずばり示す（資料①でのD組の主張のまとめ）。第二部でA～Cの論点を紹介する。そして、第三部でそれらを実証的に批判していく。最後に、改めてD組の主張をまとめ直す。そうすれば、小論文としてもうまくまとまるはずだ。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179）

<http://www.hakuranjuku.co.jp>